



十三中だより

令和6年6月3日（月） 6月号

校長 吉田 祐一

みずか かんが こうどう
自ら考え行動できる 前向きに努力できる こころ たいせつ
心を大切にできる

「ありがとう」と「うれしい」で終わった修学旅行

天候が心配された修学旅行は、3日目、桂浜での散策の時に霧雨があつたくらいで、全行程が天候に恵まれました。盛りだくさんの取り組みにもかかわらず、180人を超える集団での行動が、ほぼ予定通りに進むことができました。これも参加した皆さん、この修学旅行を成功させ、楽しいものにしようという思いが強かったからでしょう。印象的な思い出をたくさん作ることができたのではないでしょうか。

私は、タイトルに掲げた二つの言葉が印象的でした。一つは、2日目のレクレーション後、副主任の木下先生から何度も出た「ありがとう」の言葉でした。これは、連日のレクレーションを大いに盛りあげた参加者全員、また、それを企画した実行委員の人たちに対する心の底からの感謝の言葉だったように思います。

二つ目は、最終日の朝食が終わり、退館式を終えてから学年主任の土江先生から発せられた「うれしい」の言葉です。大阪から遠く離れた高知県の地で、「十三中学校つてすばらしいな」と言われるような行動を示してくれた3年生に対しての気持ちだったのでしょうか。ルールを守り、協力し合い、楽しい修学旅行にしてあげたい。それに答えた3年生に対して、自然と出てきた言葉でした。

この三日間、3年生の底力を見せてもらいました。さあ、大切なのは、この心意気を日常で示し、さらにパワーアップした十三中学校にするため、後輩たちを引っ張っていってください。

私たちの命を守る行動 備えあれば憂いなし

私たちの生活には、様々な災害が潜んでいます。予測が非常に難しい地震から、気象情報から予測ができる台風や大雨。どれも備えが必要です。本日、火災について訓練を行います。

707件。これは、昨年度（令和5年度）大阪市内で発生した火災件数です。令和4年度と比較して10%の増加ということです。注意しておけば防ぐことができるはずですが、残念ながらこれだけ発生しています。それゆえ、私たちは様々な対策を講じなければなりません。るべき初期活動、そして避難方法。命を守る行動を訓練しよう。